頻発する災害への備えと持続可能な制度の確立へ

～2026森林労連共済推進会議～

9月4日～5日の2日間にかけ、熊本市アークホテルにおいて2026森林労連共済推進会議が開催されました。関連する全ての組織が結集し、仲間の暮らしと将来を支えるための重要な方針を全参加者で共有・確認しました。

会議冒頭、来賓として加藤九州地方森林労連執行委員長から、今年発生した熊本地震や千葉県などにおける豪雨災害へのお見舞いの言葉が述べられました。

挨拶の中では、豪雨災害により車両の水没被害が相次ぎ、中には車両共済に加入していなかったため十分な補償を受けられなかったことに触れ、「自分は大丈夫」と思っていても、自然災害が頻発する現在では、誰もが突然被災者になる可能性があると指摘。万が一の際に組合員とその家族の暮らしを守るためにも、日頃から十分な備えをしておくことの重要性を訴えました。



推進本部より山田事務局長

さらに、共済は単なる保障制度ではなく、仲間同士が支え合う助け合いの仕組みであり、その精神こそが労働組合運動の本質であると強調しました。

こうした中、共済運動を取り巻く状況は決して楽観できるものではありません。2025年度の加入実績は目標に届かず、特に団体生命共済の加入率低下が大きな課題として報告されました。

なかでも20代の加入率は56％にとどまっており、若い世代への普及が急務となっています。この加入率の低下により、「健康告知事項に該当する方であっても加入できる制度」が危ぶまれる状況となっています。



推進本部の河野さんの提起

あらためてお伝えしますが、組合員の中には、民間保険への加入が難しい難病に指定されてもなお、生活を切り詰めながら公務に励んでいる仲間がいます。

「職場では手の届かないところに、きれい事抜きに直接届ける」そうした理念で成り立っているのが団体生命共済です。私たちは改めてその意義を理解し、制度の持続に取り組んでいくことを確認しました。

また、様々な課題解決や目標達成に向け、各地本で重点推進分会が設定されています。九州地本では局分会が重点推進分会に位置付けられており、自主福祉活動のさらなる活性化が期待されています。

今回の会議で特に注目されたのが、2026年1月から本格的に取り扱いが始まっている「新団体年金共済」です。複利運用が期待でき、老後資金づくりや資産形成を目的とした制度となっています。近年はNISAなど資産形成への関心も高まっていますが、新団体年金共済は元本の安全性を重視する方にとって、有力な選択肢の一つとして期待されています。

会議終盤には、2025年度の共済推進活動で優れた実績を上げた大分分会が表彰され、会場全体から拍手が送られました。

今回の会議を通じて、共済運動は制度を推進することが目的ではなく、組合員一人ひとりの暮らしと将来に寄り添う活動であることが改めて確認されました。「安心して働き続けられる職場と生活を支える」という共通認識のもと、参加者全員で契約更改に向け意思統一が図られました。



優秀分会の大分分会

「その当たり前は、誰かが守ってきたんだ」

小谷分会委員長が伝えた、都城分会定期大会

8月28日、都城支署において第23回分会定期大会が開催されました。

冒頭、分会執行部を代表して挨拶に立った小谷分会委員長は、この一年間の取組を振り返るとともに、分会運動の歴史と、その先にある、私たちの「今」について触れました。

挨拶の中で、組織・要員問題について、多くの一般職員が役付け業務を担うなど、職場の負担が増している実態を踏まえ、確実な要員配置を求めてきた。また、森林整備や林道に必要な予算の確保についても、引き続き取り組む必要があると課題を報告。

その一方、人事院勧告による賃金の引き上げや、休暇制度の緩和、山上等作業手当に関する職場実態調査など、粘り強い運動によって前進した課題にも触れました。

なかでも心に残ったのは、私たちが普段、当たり前のように感じている職場環境についての言葉。

安全に働けること、現在の身分が保障されていること、当たり前のように年次休暇を取得できること、そして職場に声を届けられること。

「これらは初めから備わっていたものではない」

過去には、けがや職業病に苦しみ、不幸にも命を落とした仲間がいた。その厳しい現実の中で、先輩たちが時間と労力を費やし、声を上げ、積み重ねてきた運動が、今日の安全で働きやすい職場につながっているということ。

日々の忙しさの中で、私たちはその歩みを忘れかけていたのかもしれません。

「働く人は一人では弱い。だから組合がある」という小谷委員長の言葉は、組合が存在する意味を改めて思い起こさせてくれました。

また、青年女性委員会による分会独自のTシャツ作製やバーベキューの計画など、新しいつながりも生まれていることから、「先人たちから受け継いだものを守るだけでなく、今の世代らしいやり方をもって、確実に次へ繋いでいく」と結びました。

小谷委員長の挨拶を通じ、分会の歩んできた歴史から、未来を考える大会となりました。

（都城分会　永井通信員）



受け継いだものを次の世代に

当面の行動

10月16日　全国代表者会議（東京都）
10月17日　全国共済理事会（東京都）
10月19日　人事院交渉
10月24日　全山労宮崎県本部大会
11月11日　全山労宮崎同友会大会

匠の腕ワンショット

「仲間を想う気持ち、久住の空へ」

（撮影者　井上　和也：大分分会）



「匠の一言」
久住の山でひとりのようです。早く仲間を探しにいこう‼

年輪

ある日の帰り道、公園で段ボールと3匹の子猫を見つけた。胸が締め付けられながらも放っておけず、その夜に少しのご飯と水を置きに戻った▼翌日、愛護団体や警察に連絡したが「保護はできない」「対応する」と冷たい決まり文句ばかり。怒りと不安が込み上げ、再び公園へ向かうと、置いたはずのご飯と水は片付けられていたが、子猫たちは寄り添いながら必死に生きようと私に向かって鳴いていた。助けられない自分の無力さに涙がこぼれ、そばにいることしかできなかった▼翌日、段ボールも子猫も姿を消していた。きっと誰かが救ってくれたのだと信じている▼命を守ることの難しさに打ちのめされたが、それでも一歩踏み出した自分を少しだけ肯定したい。やらないより、やってみる。その小さな行動が、世界をほんの少し変える力になると信じている。

（えりボー）

林野労組九州

発行所
熊本市西区京町本丁2の7
全国林野関連労働組合
九州地方本部
(電) 096－354－1150

発行責任者　松本慎剛
発行日　10日
定価　1部20円
組合員の購読料は組合費の中に含む

緑を育て、守る、林野労組

共済オルグで再認識した、組合だからできるもう一つの賃上げ
～2026森林労連共済オルグ～

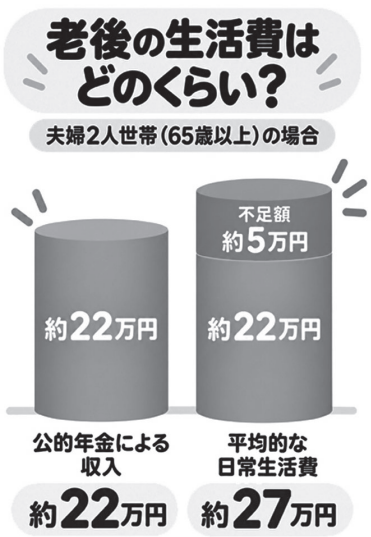
8月24日、森林労連共済推進本部の山田事務局長を迎え、共済オルグが開催されました。

今回は共済制度の概要だけでなく、「なぜ労働組合が共済に取り組むのか?」という原点について、改めて学ぶ機会となりました。

オルグの中で特に印象的だったのは、「賃上げが入るお金を増やす運動なら、共済は出るお金を減らす運動である」という言葉。

残念ながら私たちの生活は、賃上げだけで暮らしが豊かになる時代ではありません。物価高騰が日常となった今、賃金を上げることはもちろん、保険料など毎月の「出ていくお金」にも手を打たないと厳しい時代です。

とはいえ、支出を減らしたいからといって、万が一への備えまで削ってしまうのは怖い。「保障はちゃんと持ちたい。でも、できるだけ出費は抑えたい」そんなワガママにも見える願いをどう実現するか。今回の共済オルグで教えてもらいました。



あらためてお伝えすると、森林労連共済は単なる保険商品ではありません。組合員同士の「助け合い」の仕組み。自分が納めた掛金が「仲間を支え」、自分が困ったときには「仲間から支えてもらう」。そこには株主がいないため、お得な商品しかないのです。

そして、ここで少し考えてみたいのが、「なぜ森林労連共済は、これだけお得にできるのか?」ということ。

世の中にはたくさんの保険商品がありますが、民間の保険会社は幅広い職業、生活環境の人を対象に商品をつくっています。

一方、共済が対象としている範囲は、同じ職場で働く人。つまり、私たちがどんな仕事をし、どんな場面で困り、どんな保障があれば助かるのか。組合員の暮らしに特化した制度ということで、民間よりムダが省かれています。

「森林労連共済って、組合に昔からある保険でしょ?」

もし、そんなイメージだけでスルーしているとしたら実はもったいない。

具体的なところでいえば、マイカー共済（車の任意保険）は団体割引が効きますので、かなりお得。

同じ補償内容で大手と比較し年額7万円以上お得になった事例や、これまで比較したすべてのケースで有利になったなど、比較する価値を感じました。

また、新団体共済年金制度は「元本保証型の商品」で、その性質は貯金と同質でありながらも、貯金より利回りに期待できます。

普通預金の期待利回りが0・4%に対し、共済の商品は1・25%と、その差は約3倍。将来のために同じようにお金を貯めるなら、どちらが効率的なのか?改めて考えさせられました。

今回のオルグを聞いて感じたのは、率直に言えば「森林労連共済、思っていた以上にやるじゃん」ということでした。

物価が上がる時代だからこそ、「保険証券を一枚引っ張り出して共済と比べてみる」。それだけでも、立派な生活防衛になるかもしれません。

ちなみに私も、手取りを増やす方法として森林労連共済をめちゃくちゃ活用しています。いやマジで。


共済オルグには局分会が参加

3分でわかる○○のコーナー

マジありがとうでは限界?
～林野労組が人事院交渉に臨む理由とは～

「熱中症対策を徹底して安全にお願いします」

この言葉に間違いはないけど、クソ暑い中、現場に向かう人からすると「とりあえず気温を5度下げてもらえませんか?」というのが本音。

残念ながら、林野庁には現在「気温調整機能」は実装されていません。また、AIがどれだけ進化しようが、「すみません、今日の調査はオンラインでお願いします」にはならない。

そのような中、今年の夏も誰かが現場へ向かいました。大量の飲み物を買って(自己負担で)。

とりわけ松くい虫の被害木調査は、業務の性質上、暑い時期に行われます。「暑いから秋にしよう」といったズラシがききません。

国有林の現場も、こちらの都合は一切聞いてくれません。い小班はいつも優しくて、「今日は暑いですからね、少し涼しくしときますね」、なんて聞いたことない。むしろ、い小班には大きめの穴ボコが用意されています。

また、調査に行く前、熱中症対策としてスポーツドリンクを買います。凍らせた飲料も買います。足りなかった場合に備えさらに買います。気づけば「このままキャンプに行こうぜ」とテンション上がるほど買い込みます。しかし向かう先は、あら残念。い小班。

そして汗だくになりながら調査から戻ると、「お疲れさま」、そんな言葉を掛けてもらえますが、ただ、考えるのです。この仕事、「よく頑張った」の声掛けだけで成立してないか?

もちろん、職員は頑張りますよ。だって仕事ですし、その対価である給与ももらえますから。でもこの先ずっと、気合いだけで成り立つとは思えない。それほど過酷になってきた。

そこで林野労組は人事院に対し、山上等作業手当の拡充を求めています。

山上等作業手当とは、危険性や困難性を伴う業務に対して支給される特殊勤務手当。立木調査などの対象業務が人事院規則で定められています。

とはいえ、支給要件がちょっとズレると支給されない。前述の松くい虫の被害木調査も対象外。過酷だし、飲み物代など自己負担があるのにね。

んー、たとえば10年後、誰が調査に行ってくれてるのか?その過酷な業務を頑張って「マジありがとう」だけで足りるのか?

そこを強くイメージしながら取り組んでいます。

将来を守る取組として都城分会・組合員向けマネーセミナー

7月30日、九州労働金庫都城支店の2名にお越しいただき、森林管理署都城支署2F会議室において、主に若手職員を対象とした「資産形成勉強会」が開催されました。

勉強会では、ろうきんは営利を目的としない協同組織の金融機関であり、働く人やその家族の生活向上を目的として運営されていることから、給与振込や各種ローン、資産形成など、幅広い金融サービスを安心して利用できることが紹介されました。

また、近年注目されているNISAやiDeCoについても分かりやすく解説いただきました。

NISAは運用益が非課税となる制度であり、少額からでも長期的な資産形成を行うことができること。iDeCoは老後資金づくりを目的とした私的年金制度で、掛金が全額所得控除の対象となるなど、税制面でのメリットがあることについて学びました。

参加した組合員は熱心に耳を傾け、将来のライフプランを見据えた資産形成の重要性について理解を深めるとともに、若いうちから計画的に取り組むことの大切さを学ぶ有意義な機会となりました。

資産形成というと、「まとまったお金が必要」「まだ若いから先の話」と考えがちですが、今回の勉強会を通じて、少額からでも早いうちに始めることの意味を知る機会となりました。

日々の生活の中で無理なくできることから始め、将来の結婚や住宅、子育て、老後など、それぞれのライフイベントに備えていくことが大切です。将来の自分を助けるためにも、今のうちからお金について考えてみることが、資産形成の第一歩なのかもしれません。

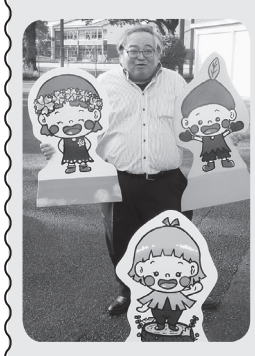
（永井通信員　都城分会）


資産形成のコツ、ろうきん直伝!!

あのこの人どんな人

「技センの新しい仲間」

川口　理さん（技術センター分会）


「え?どれが川口さん?」

今回は技術センター分会から今年度4月に技術センターのメンバーとなった、今年度で入庁30周年を迎える荒北出身の川口さんを紹介します。

森林技術・支援センターでは森林技術普及専門官として、視察対応や、普及活動に尽力しています。

川口さんは、明るく親しみやすい人柄で、職場の雰囲気を自然と和ませてくれる方です。誰に対しても分け隔てなく接し、気さくに声を掛けてくれるため、多くの人から親しまれています。困ったことがあれば気軽に相談でき、仕事の話から何気ない雑談まで話しやすい存在です。その場に川口さんがいるだけで会話が弾み、職場が明るくなるような不思議な魅力を持っています。

また、興味を持ったことについてはとことん調べる探究心があり、一度関心を持つと驚くほど詳しくなります。仕事に関する知識はもちろん、さまざまな分野に興味を持ち、豊富な知識を蓄えています。「なぜそんなことまで知っているのだろう」と周囲を驚かせることもあり、その知識の広さには感心させられます。会話の中でも自然とその知見が発揮され、新しい発見や学びを与えてくれるため、一緒にいると飽きることがありません。

親しみやすさ、豊富な知識、そして周囲を明るくする人柄を兼ね備えた川口さんは、多くの人から信頼され、慕われています。これからも持ち前の明るさと好奇心を活かし、職場をさらに盛り上げてくれることと思います。

（技術センター分会・山本通信員）